

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます

# SSKP いずみ

No.  
145

2007年6月

## \*社会福祉法人 泉会\*

法人本部  
泉の家〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号  
☎03(3417)3451(代) ☎03(5494)7533  
izumi@izumikai.jp  
http://izumikai.jp/izumi/

日の出舎

〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番  
☎042(597)1451(代) ☎042(597)2205  
hinode@izumikai.jp/hinode/  
http://izumikai.jp/hinode/岡本福祉  
作業ホーム〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号  
☎03(3415)3366(代) ☎03(3415)4976  
okamoto@izumikai.jp  
http://izumikai.jp/okamoto/岡本ホーム  
玉堤分場〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号  
☎03(5707)9431(代) ☎03(5707)9433  
tamatumi@izumikai.jp  
http://izumikai.jp/tamatumi/

久しぶりのもちつき大会で盛り上がりました（日の出舎）

本年の聖句  
愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。  
(コリントの信徒への手紙Ⅰ3章4～7節)

## サービスの芽

理事長 橋向敏治

福祉の業務に携わる人に求められることは、サービスを利用する方の要望を聞き・理解し・相手の視点で発想が出来ることつまり『自ら考える』ことが大切です。長い歴史の中で培われた、マニュアルによるノウハウで運用出来る仕組みは、今まで成長の原動力となりました。反面いつの間にか、指示待ち・対応の遅れが出てきます。社会の変化・ご利用者の変化に気づき、現場の中で話し合い、解決に向け努力する事が大切です。慣れによる不注意も起きてきます。ご利用者の視線で気が付いたことを素早く行動にうつすことが、ご利用者との信頼を保ち、豊かな希望が生じることに繋がると思います。福祉サービスの芽は、なにげなく気づいたこと、些細なことでもその場でメモし、問題があれば一人で抱え込まないで誰かに相談をする、共有することが大切になります。常に自己変革の大切さを自覚し、損と得があれば、損の道を選ぶ心構え、人に尽くすことを喜びとし、その姿勢を変えない・感謝の声を発し・きめ細やかな心くばりを身につけて、利用者の立場に立ち、喜んでもらうことを仕事として優先できれば素晴らしい。苦しく悩み多くとも多くの方の善意に支えられており、励まされていることに感謝して歩みたいと思います。



## 泉の家

### 新事業・将来計画へ全力疾走

今年度、新しい泉の家が誕生、そして重要な転換期を迎えました。

#### 【重要実施事項】

- 一、短期入所事業の実施  
(六月より受け入れ開始)
- 二、日中ショート事業実施  
(世田谷区、地域生活支援事業)
- 三、世田谷区と連携の構築(年間)
- 四、東京都施設整備補助事業への申請(七月)
- 五、新事業体系移行のシミュレーション(年間)
- 六、地域交流事業への参加・企画実施(年間)
- 七、利用者支援の強化、質を高め

#### 満足度UP(上期)

以上を計画的に実施いたします。

泉の家建替え計画、事業展開は、理事長の指揮の下、法人一丸の取り組みを展開し、相互協力を築き鋭意努力します。このことは、職員一人ひとりが積極的に意見を出す「自分達が作り上げるんだ」の意識改革・組織力の向上にもなり必ずや成し遂げられると確信しています。

## 日の出舎

### 新しい制度に向かって

「自立支援法」移行を視野に入れた基盤整備を図る年とします。具体的には施設入所支援を

継続していくため、生活介護事業の内容を日課に取り入れて行きます。同時に職員組織体制や支援業務体制の見直しも図ります。また、各自自治体の障がい者地域福祉計画を踏まえた事業を精査し、その内容が施設でもできる様であれば積極的に取り入れ、地域の一翼となるよう努力します。新規事業としては、ご利用者の加齢と共に六十五歳以上の方が増えている現状から、介護保険制度を視野に入れた事業も模索していきます。

ご利用者や地域の障がい者が新制度の中で不安を抱えています。私たちは、今こそキリスト教の精神で事業を開拓された先達の心を思い起こさなければなりません。

## 法人本部

### 困難な情勢を乗り越える体制を!!

五年前の経営理念再策定から引き続き推進している経営改革を、さらに確かなものとするためコンサルタント、会計事務所等の力を借りて法人内各事業所の効率的・統括的な経営を心がけます。

法律・制度の改定により、少なからずの負担を求められる障がいがある利用者の、

希望する地域生活実現を目指して、法人の果たすべき使命・役割を探っていくます。

日の出舎、グループホームいずみを中心とした西多摩地域、法人発祥の世田谷地域にあって困難な社会生活をしている障がい者の福祉実現を心がけます。

開設以来三十六年、四十一年を経た老朽施設の事業展開を地域社会の要請にこたえられるように検討を加え、法人全体で向こう三年間(中期)の目標を策定し経営を計画的に進めます。

社会福祉法人泉会は以下の経営理念、基本方針に基づき今年度も事業を進めていきます。

**基本理念** 一、私たちは信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます。

**基本方針** 一、わたしたちは、キリスト教の精神に基づいて法人の事業を開拓された先達の心を想い起こし、時代に即したサービスを、利用される方々と共につくり出します。

一、わたしたちは、国籍や信条、年齢、性別、障害の程度にかかわらず、利用される方々の人権を守り、社会・経済・文化等あらゆる分野で活動する機会を十分得られるように支援します。

一、わたしたちは、ノーマライゼーションの理念に基づき利用される方々が、地域社会の中で共生できるような支援します。

一、わたしたちは、一人ひとりの多様な個性・可能性に対応し、生きることの喜びや働く意欲を大切にしながら、充実した日々をおくれるように支援します。

一、わたしたちは、情報公開を積極的にすすめて、地域に開かれた透明性のある事業経営をめざします。

一、わたしたちは、利用される方々と心を合わせ、人間らしく生きることのできる平和な社会実現をめざします。

## 2007年度

# 事業計画

## 岡本ホーム

### 可能な限り地域生活を!!

指定管理者二年目、「障害者自立支援法」による新事業移行を翌年に控え、世田谷在住四〇名の方へ日中活動の場を提供します。

他に働く機会の困難な方に、作業活動を通じて就労の場を提供し、一般就労(雇用)の可能性のある方には関係機関と連携して就労移行支援に取り組みます。

就労の場では、障害状況に応じて作業参加を促進し、より高い工賃手当ての還元を目指して付加価値の高い仕事を追求します。

ご利用される方の年代にに応じて、ご本人およびご家族の希望

する地域社会生活を実現、継続できるように、関連地域福祉サービスと協同して事業を展開します。

ご家族の構成の変遷に伴い、可能な限り地域生活を継続できるように、法人内世田谷三事業所が協力して福祉サービスの充実を図ります。

## 玉堤分場

### 希望ある事業を目指して

障がい者自立支援法が施行され二年目を迎えました。今年度は、新事業へスムーズに移行するための体制を整えます。そのために、次の重点施策に沿って

事業を展開します。①就労支援 ネットワークと工賃向上のため の仕組みを構築します。②サービス検討会を設置し、サービスメニューの検討をします。③PR用DVDを作成し、地域へ情報発信を行ない、多くの方に施設をご利用して頂けるようすすめます。④リスクマネジメント勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めます。

そして、指定管理施設として、世田谷区と連携をとりながら、区民のニーズに沿った事業を展開し、区民から信頼され、希望のもてる施設を目指します。





一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)  
二〇〇七年五月八日発行(SSKP増刊通巻三四八三号)



### クッキー作業

今回はクッキー作業をご紹介します。

まず、午前中に生地こねとラッピングの作業を行います。

ラッピングは、袋詰めは職員が行いますが、計量、袋とじ、袋折り、日付けシール付け、ラベル付けの各工程はご利用者に担当してもらっています。各工程で、クッキーが割れていないかどうかチェックしながら流れ作業で行っています。簡単そうですが、繁忙期は一日に約300袋は出来てくるので、とても忙しく大変な作業です。

また、ラッピング時に貼るラベルもご利用者のみなさんに作ってもらっています。ラベルの印刷は職員ですが、ラベルを切って、テープを貼り、折るという作業はご利用者が行っています。1枚1枚手作業の為、とても根気と集中力が必要です。ラベルはご要望がある時は絵柄を変えることができ、メッセージや絵はもちろん、小学校

の校章等も入れることができ、お祝い事や行事の時にとても好評です。そのため、ラベルも注文によってすぐ取り出して使えるように種分けしてもらっています。

ラッピングの次は生地作りの作業です。バター・砂糖・卵・を用意し、ケンミックスで混ぜていきます。予め振るっておいた小麦粉と混ぜてこねていきます。このこねる作業はとても体力が必要で、一つこね終わる頃には息が上がってしまいう程です。こねあがったものは職員が均一な厚さになるよう伸ばし、冷蔵庫で保存します。これで午前は終了です。



生地こね完成までもう少し！



型抜きに集中しています。

午後は型抜きの作業です。生地を何個こねたかによってその日の型抜きの数が決まります。また、クッキーの型は大・中・小とあり、大の型は天板に何個を何列並べるか数が決まっております。みなさん、正確にきっちりとして下さいます。とても集中力が必要な作業です。今の時期はまだ良いのですが、気温が上がってくると生地が柔らかくなってしまう、抜きにくくなってくるので更に集中力が必要となります。

次にご利用者のみなさんが型抜きしたものに卵を塗って焼いていきます。オーブンを使って焼くた



いろんなラベル作っています！

め、この作業は職員が行っています。毎日午後には外にまでクッキーの良いにおいが広がっています。焼き上がったものは熱を冷まして、ケースに入れ、翌日にラッピングします。これでクッキー作業は終わりです。

現在、卵アレルギーの方のための卵を使わないクッキーや、バターを使わないクッキーもご要望によつては製造していますので、ご希望の方はご注文の際にお問い合わせ下さい。

ご注文お待ちしております。

(津川 紫瑞)



### 短期入所事業開始！！

泉の家の建物は築四十二年を経過しており、いつ何が起こるかわからない状況で経営をしております。

そのため、昨年度より施設整備計画を徐々に立て始め、今年の七月には東京都に補助事業の申請を



法人職員皆で協力して...

する予定です。先達の意思を継ぐために同じ敷地での建て替えを検討していますが、もし施設整備が順調に進んだときには現在の建物の取り壊しが必須です。

その時、泉の家で生活しているご利用者はどうなるのでしょうか？間違っても追い出すようなことはありません。

ご利用者の意向による個別支援計画に基づいて、特別養護老人ホームや養護老人ホーム等への施設移行、自立等を検討し、進めていった結果、昨年度は入所者9名が、ご本人の希望に添い、他施設への移行等のため、泉の家を退所されました。

そこで困ったのが、ご利用者の減員による収入の大幅な減少です。その大きな収入減を少しでも改善すべく様々な対策を考えました。

世田谷区にも赴いて、区内での福祉ニーズを伺いました。そうしたところ、短期入所及び日中シヨート事業の需要が非常

に強く、泉の家でも可能なら実施してほしいとの話がありました。そこからは短期入所事業開始に向けて、動き出しました。

まず場所は、入所利用者が減ったことによる空き部屋を有効活用すべく、四階の一室を男性用の短期入所の居室として利用。さらに、障害者自立支援法に基づく新体系事業を踏まえ、二階作業場のレイアウトを大幅に変更し、今まで三階にあったパソコン室を二階に移動しました。そのために空いた三階の一室を女性用の短期入所の居室として利用。もうひとつ入所利用者の自立体験室として近隣に借りているアパートの一室を単独型短期入所事業として、計三床の短期入所事業の申請を行ない、その後、無事に承認され、四月より短期入所事業開始の運びとなりました。

居室の改修にあたつては、少ない予算では業者による工事に限界があったため、法人内の職員の協力を仰ぎ、棚の撤去や居室・廊下・階段の塗装など職員で出来ることはすべておこないました。



見違えるほどきれいな部屋に！！

その甲斐あつてか、写真のように賃貸物件として貸し出してもいいのではないかとという程の立派な居室が完成しました。

この短期入所事業は、泉の家の少ない職員だけでは出来ないため、法人職員みなさんのお力を借りて、地域の皆様に喜ばれるようなサービスをしていきたいと思ひます。

世田谷区にお住まいの障がいをお持ちの方、ぜひぜひご利用ください！！

(菅原 隆成)





## ご利用者・糸鋸の練習について

日の出舎では、木工製品や燻製製品、受託製品の製作や販売を行っています。ご利用者には、日々熱心に製作や販売に取り組んでいたっており、昨年度もさまざまな場所でご好評をいただくことができました。はじめて当施設をご利用になる方や、さらなる技術の向上を望まれるご利用者には、支援課のスタッフが、安全を確認しながら丁寧に作業手順をお教えします。写真は、新しく入所されたご利用者に、スタッフが糸鋸の作業工程をお教えしているところです。この工程は細かい手先の作業であり、かつ、刃物を用いるため少々危険をともしない、作業難度が高いだけに、一層作業に集中する必要があります。この作業を行っていると、次第に深く集中して周囲の雑音が聞こえなくなり、スタンドの明かりに照らされた鋸の歯と板しか見えなくなります。時間の経つのも忘れてしまいます。

一つのこと集中し、無心になって取り組む時間は、どなたにとっても心地よいものです。実はこれを書いている私自身も糸鋸の作業が大好きです。作業に集中している時間も楽しいですが、作業を終えたあとの疲労感もなかなかのものでした。

(二見 秀彦)



糸のこ自主練習中



## 通所一年を振り返って

昨年四月、不安と期待を胸に三名の利用者が新しく岡本ホー

ムの仲間に加わりました。通所一年を振り返って感想を伺っています。

### 町田若葉さん

私はずっと、働いて自分でお金を稼ぐことが夢でした。その夢が、いつごろからの夢だったのかは、自分でもわかりません。岡本に入ったことでその夢がようやく叶い、とても充実した一年だったと思います。たとえ月に一度の収入がわずかであっても、自分でお金を稼ぐことができる喜びは、わたしにとって大きいものなのです。

### 朝広恵理さん

私は岡本に通って一年色々な事がありました。最初は職員としか話をしなかったけど、慣れてきて利用者とも話せるようになりました。作業では初めはワークコースに入って楽しかったけど、途中でアートコースに移って職員に色々な絵の描き方を教わりました。岡本 i s m に作品を出品したり、年賀状やカレンダーを販売出来てよかったです。二年目に入りましたが、この調子でマイペースに楽しく活動出来

ばいいと思っています。

### 塗矢あかねさん

一言で言えば「いろいろあった」丁寧な言うこと一日では足りないです。だからこそ思っている事を言います。通うことができて本当に良かった、朝になると自然と来なくなります。知人の「大丈夫？」が「いつも元気だね」に変わりました。「しっかりした」とも言われ、通ってから全ての事にありがたうです。

三人とも今では岡本ホームの頼れる一員です。

(河村 律子)



手前から町田さん、朝広さん、塗矢さんです。



いずみ友の会監事  
吉村 謙さん

縁あって、法人の賛助会のお手伝いをさせていただいています。小生は、昭島で牧師をしながら、現在は、あきる野市内で、心の病を負う人たちのグループホームあきる野の世話人をしていいます。奥村施設長からのご依頼もあり、数年前にお引き受けいたしました。

障がい者の置かれている立場は、昨今大きく変わろうとしています。今までの、保護をされて生

きることから、本人の主体性を保持しながら、自立支援をしていくという制度に変わりました。このことによって、当事者たちは戸惑いを隠せません。事業者も同時に今までのような対応とは異なる動きを要求されています。

自立支援法を見る限り、特に身体障がい者の置かれた状況はとも厳しいものとなっています。施設から地域に移行すると言われるのも、国の制度では、知的障がい者と精神障がい者については、地域の受け皿となるグループホームがあります。身体障がい者の場合には、この受け皿もなく、民間アパートや都営住宅しかありません。その多くは、車いすなどでも動き回れるようなユニバーサルデザインのものはほとんどありません。しかも、ホームヘルパーの利用は、現実的には限られています。経済的にも、障害者年金では到底生活ができるわけでもなく、生活保護に移行するよりほかのないような状況です。何か施設からも追い出されたような気さえ抱く人もいます。

以前、調布柴崎伝道所の中で失明されて牧師になられた青木優

先生から、障がいとは、3つの壁があるというお話を聞いたことがあります。ヨハネ福音書9章で盲人についての言及した箇所から、本人自身の障がいによる不便さによる苦勞、2番目は、宗教による裁きとして扱われ、罪人としてレッテルを貼られること、そして、この社会からの差別による壁があるということでした。このようななかで、この壁を自らで打ち破って行かなくてはならない現実です。今回の自立支援法では、当事者たちが自分の力を発揮して、自分なりに生活を作り出すことですが、この壁はとてつもなく厚いものだと言えます。最近、小生は、心の病を負う人たちとの出会いのなかで、特に誤解を恐れずに語りますと、病気を受容するところが、自分の将来を諦めるようなものになってはいまいかと考えさせられます。諦めることは辛い事ですけれども、限度を超えたいものはそこから希望のようなものは出てこないような気がします。旧約聖書に、イスラエルの民がバビロン捕囚を体験したときに、自らの故郷は廢墟と化し、身内の者は、亡くなったり、怪我をし、自

分たちの財産も失われ、見知らぬ地に連れて行かれるなかで、絶望の淵に追いやられた人たちのことを、枯れた骨と予言者エゼキエルは表現をしました。神の言葉を聞き、幻をエゼキエルは見ます。それは、神の息が吹き込まれるとこの骨がカタコトと動き出し、そして、いつしか肉が付き、人が復活するのを見るのです。その体験を語るのです。同じ時期の予言者イザヤは、「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしを遣わして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、主のめぐみの年を告げ知らせるのである。」と語り、この言葉は、イエスが会堂で読まれたときに、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きました。私たちの力は小さい者ですけれども、神様の力や息吹、霊が、この世に働いておられることを信じて、当事者たちの笑顔を共に共有したいと願っています。





さくら



エデン



くま



ひまわり



上田 英之 さん

人物や動物を中心に描いています。  
今回は“お花”にも挑戦しました。  
イキイキとしたタッチをごらん下さい。

発行所 障害者団体定期刊行物協会 頒価五十円  
東京都世田谷区砧六の二六の二一  
編集人 社会福祉法人 泉会

## 玉堤分場 製品紹介

牛乳パックをリサイクルして作ったハガキに、ボランティアさんが1枚1枚丁寧に、絵を描いた絵付けハガキです。(現在3名の方に描いていただいています。) 絵柄は行事もの・季節もの・オールシーズンOKなもので様々です。ご家族やご友人へ、近況や日頃の感謝の気持ちを、この温かみのある絵と共に送ってませんか？

ご注文・ご要望の方は下記までご連絡ください。

東京都世田谷区玉堤2丁目3番1号  
岡本福祉作業ホーム 玉堤分場  
TEL 03-5707-9431



絵付けハガキ  
1枚 120円

※現在、絵付けをしていただけるボランティアを募集しております。  
ご希望の方は左記までご連絡ください。